

# 災害時における女性のニーズ調査

## ～なぜ 防災・災害復興に女性の視点が必要か～

特定非営利活動法人イコールネット仙台  
宗片 恵美子

# はじめに

宮城県沖地震発生確率

10年以内70%程度、20年以内90%程度以上、  
30年以内99%

(地震調査研究推進本部2011年1月1日評価時点)

女性の暮らしは多様

(子育て・介護・障がい・妊娠中・ひとり親・・・など)

⇒災害時、様々な不安や心配

災害時における女性のニーズの把握

⇒ニーズに合った防災の取り組みが求められる

# 災害時における女性のニーズ調査

## 実施目的

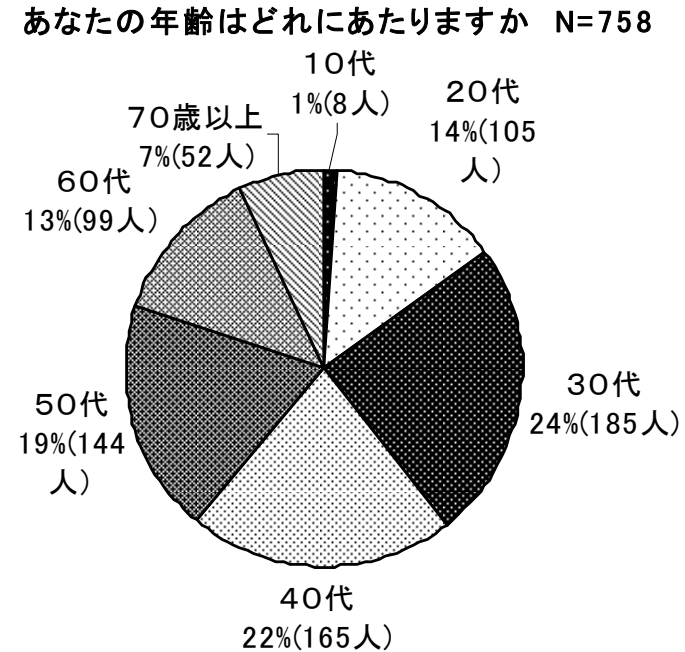
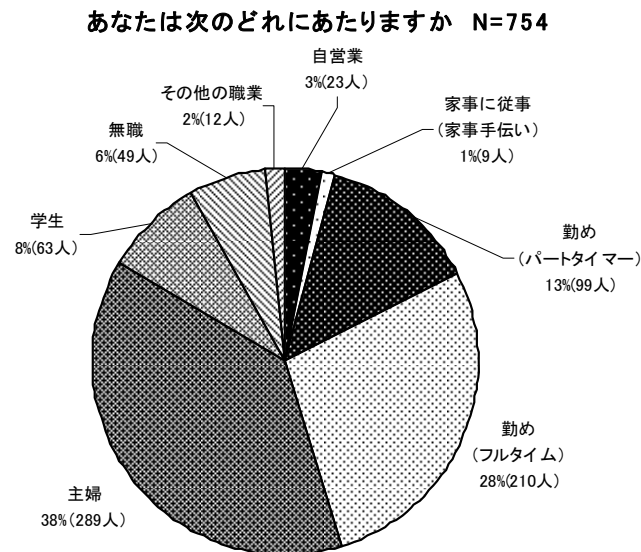
今後予想される宮城県沖地震の発生に向け、仙台市内において、多様な環境で暮らす女性たちの災害時におけるニーズの把握を目的に、アンケート調査を行うとともに、宮城県内で発生した地震災害を体験・被災した女性たちにインタビュー調査を実施し「女性の視点からみる防災・災害復興対策に関する提言」をまとめる。

# アンケート調査(仙台市居住の女性)

## 調査対象

子育て中、介護中、妊娠中、病気療養中、  
 高齢者、障がい者、学生、外国人、ひとり親  
 ……など

調査用紙配布数	1,111
回収数	773
回収率	69.6%
実施時期	2008年5・6月



# 【調査テーマ1 災害への危機感】

## 避難時に心配な点は

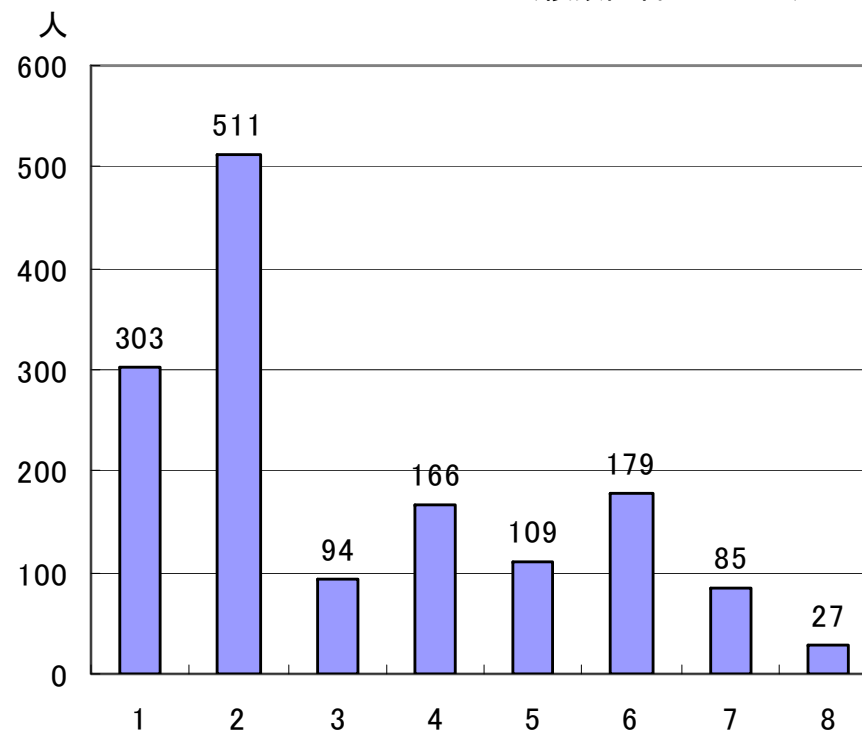
「家族との連絡」

「的確な情報が得られるか」

もし、大地震が発生して避難が必要になったとき、  
あなたはどのようなことが心配ですか

1. 災害についての的確な情報が得られるか
2. 家族との連絡がとれなくなるのではないか
3. 病人・高齢者・障がい者の避難  
(介助してくれる人がいるか)
4. 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか
5. 近隣の人たちと助け合って避難できるか
6. 避難場所が安全か
7. ペットと一緒に避難できるか
8. その他

(複数回答 N=749)



## ＜避難時に心配な点は・・・＞自由記載より

★共働きのため、職場にはりつけられる。家に子どもを一人残すしかない。

★寝たきりの夫を自宅で介護している。避難しなければならぬ状況で夫を連れだすことは不可能。

★子どもに障がいがある。子どもを連れて避難所には行けない。危険でも自宅にいるしかない。

★障がいがある・介護をしている・高齢である・乳幼児がいる⇒無事に避難できるか

……………など

# 【調査テーマ1 災害への危機感】 被災して困ると予想されることは

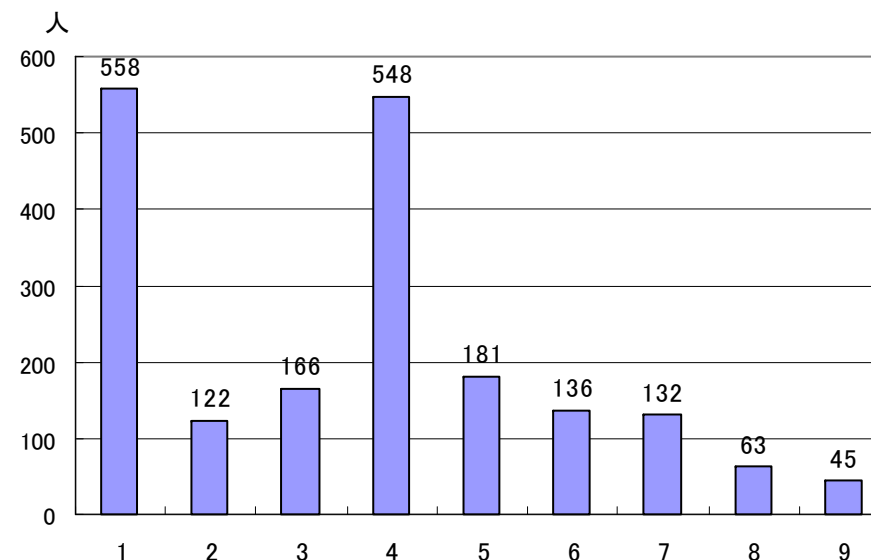
## 「自宅の復旧」

## 「生活用品や食料が手に入らなくなるのでは」

被災した場合、生活上で、困ると予想されることは何ですか

1. 家が倒壊・破壊したら、復旧はどうなるか
2. 仕事に影響は出てこないか
3. 病院の治療が続けられなくなるのではないか
- 4.生活用品や食料が手に入らなくなるのではないか
5. 子どもたちのストレスが心配
6. 高齢者や障がい者をケアしてもらえるか
7. 老朽化した住宅が倒壊しないか
8. 災害発生後に女性や子どもへの暴力が増えるのではないか
9. その他

(複数回答 N=751)



# ＜被災時、困ると思われることは・・・＞

## 自由記載より

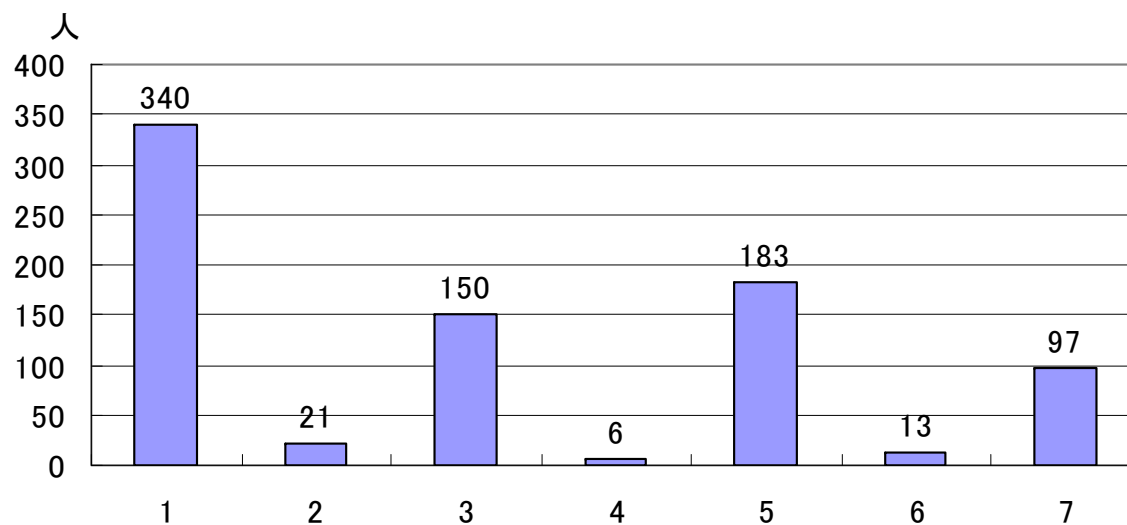
- ★子どもに食物アレルギーがあるので、除去食を与えられるか
- ★家族に既往症があるので、具合が悪くなった場合、対処できるか
- ★在宅でも、情報の提供や救援物資の支給をしてもらえるか
- ★妊娠中で、もし今地震が来たら、無事に出産できるか、出産後のケアを受けられることができるか
- ★子どもに知的障害がある。環境が変わると不安定になる。相談に乗ってくれる人がいるか
- ★心身に障がいを持った人のケアをしてもらえるか
- ★一人暮らしで、地域の中での交流もない。いざとなったら、助け出してもらえるか
- ★母子家庭で、災害後もパートを休むわけにいかない。子どものことが心配  
・・・など



# 【調査テーマ2 いざ避難が必要になったら】 「公的避難所」へ

もし、大地震が発生し、避難が必要になったら、あなたはどこに避難しますか

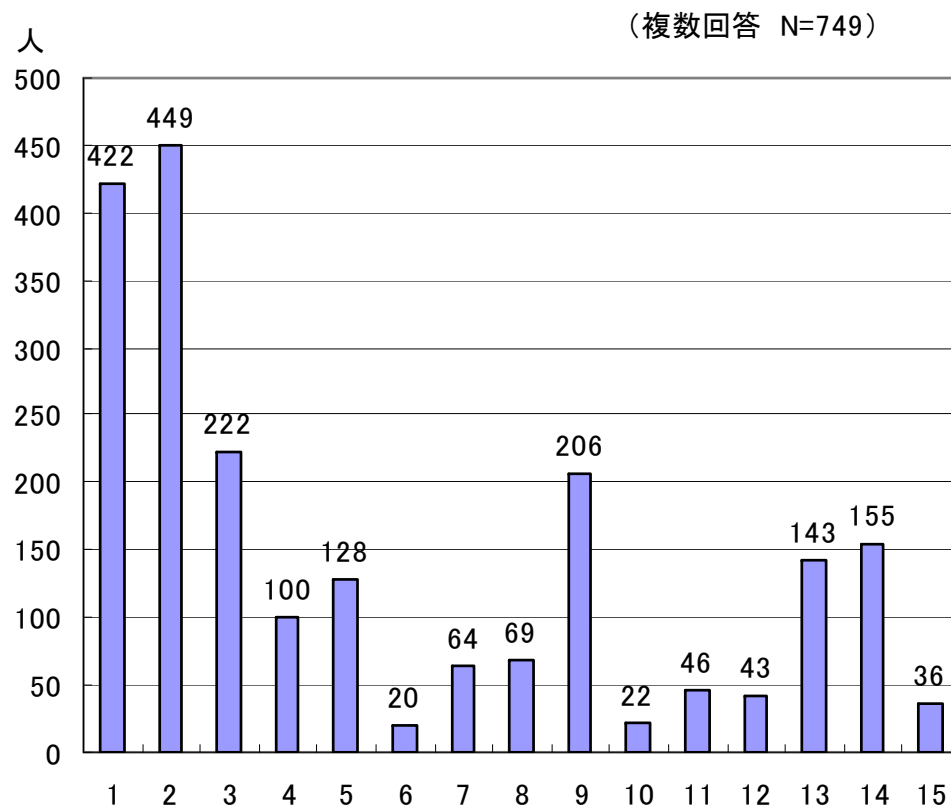
1. 市役所・区役所が開設する避難所
2. 市内の友人・知人宅
3. 市内の実家・親類宅
4. 市外の友人・知人宅
5. 市外の実家・親類宅
6. その他
7. わからない



# 【調査テーマ2 いざ避難が必要になったら】 避難所に希望することは トップは「男女別トイレや更衣室」

## 避難所に希望することは何ですか

1. プライバシーに配慮した空間の工夫をしてほしい
2. 男女別トイレや更衣室を用意してほしい
3. 診察と簡単な治療のできる医務室がほしい
4. 心配事やストレスを相談できる窓口を設置してほしい
5. 避難所の運営の責任者に女性を入れてほしい
6. 授乳室がほしい
7. ミルクや離乳食、オムツなどの支給を充実させてほしい
8. 子どもが遊べる部屋や乳幼児のための空間を確保してほしい
9. 生理用品など女性に必要な物資を支給してほしい
10. 妊産婦へのサポートや育児相談などを受ける保健師、助産師を配置してほしい
11. 女性のためのクリニックを設置してほしい
12. 障がいを持つ人も利用できるように応急的な施設のバリアフリー対策を考えてほしい
13. 高齢者や病人、障がい者のために、設備の整った介護施設や障がい者施設などを避難所にしてほしい
14. 調理場や洗濯場を確保してほしい
15. その他



## ＜避難所への希望＞ 自由記載より

- ★女性の医師や相談員がいてくれると身体的にも精神的にも安心。
- ★子どものストレス・体調が心配。
- ★授乳室・子どもの遊べる空間がほしい。
- ★病人・障がい者・乳幼児を抱えている人たちのための避難所を別に用意してほしい。ベッドやトイレについては、特に考えてほしい。
- ★車イス用のトイレの設置を特に要望したい。生理などの際、使用時間も長くかかるし、介助がほしい場合もある。
- ★避暑や防寒に対する対策を考えておいてほしい。
- ★子どもに知的障害がある。周囲に迷惑をかけることや本人が不安定になることを考えると避難所生活は困難。
- ★感染症対策を徹底してほしい。
- ★子どもたちや外国人が理解できるように案内や表示に絵やイラストを多く使ってほしい。 ……など

# 避難所の現実①(インタビューから)

## インタビュー対象

- 宮城県北部連続地震(2003年7月発生)体験者
- 岩手宮城内陸地震(2008年6月発生)被災者

- ★コミュニティセンターに設置された避難所に避難したが、100人程度の人  
がざこね状態で、仕切りもなく息苦しかった。
- ★高齢者の中には、避難所に入りにくい人もいた。自宅の庭やハウスの中  
で過ごし、気づかないうちに持病が悪化していた。
- ★アパートから避難してきた子どもたちが、自宅のドアが一つで逃げ出せな  
かった恐怖から自宅に帰りたがらなかった。
- ★医師は巡回してきたが、具合が悪いと言えず、夜になって熱を出す人も  
いた。
- ★トイレをがまんして膀胱炎になったり、ストレスで生理不順になるなど、  
婦人科的疾患に悩む人もいた。
- ★出産直後の母親もいて、相談のできる専門家がいなくて困っていた。

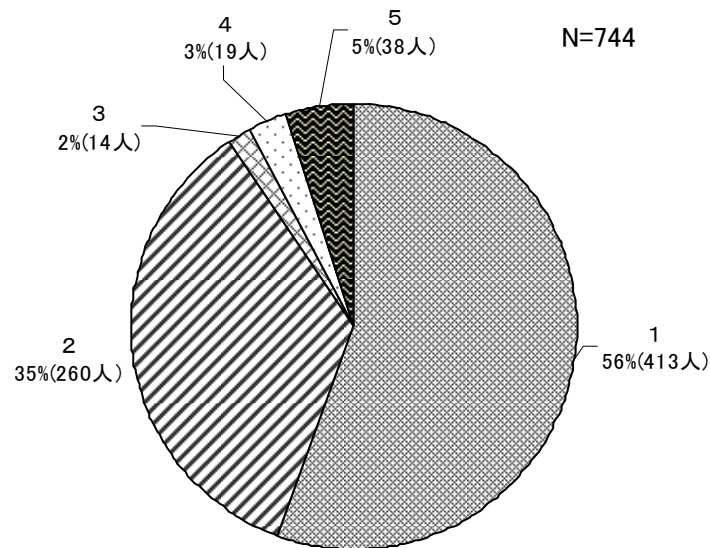
## 避難所の現実②(インタビューから)

- ★更衣室を段ボールで作ってもらったが、不備なもので、男性の目が気になった。
- ★子どものストレスも大きく、避難所の中を走り回ったり、泣いたりするため、母親は気をつかって外に出ていくしかなかった。
- ★ストレスのために母乳が止まった。ミルクやオムツも十分でなく、授乳室やオムツ替えのスペースもなかったため、子どもへのケアも十分にできなかった。
- ★救援物資が公平に支給されないため、不満が続出した。
- ★目の前で山が崩れる情景が頭から離れず、恐怖で夜も眠れなかった。精神的なケアがほしかった。

……など

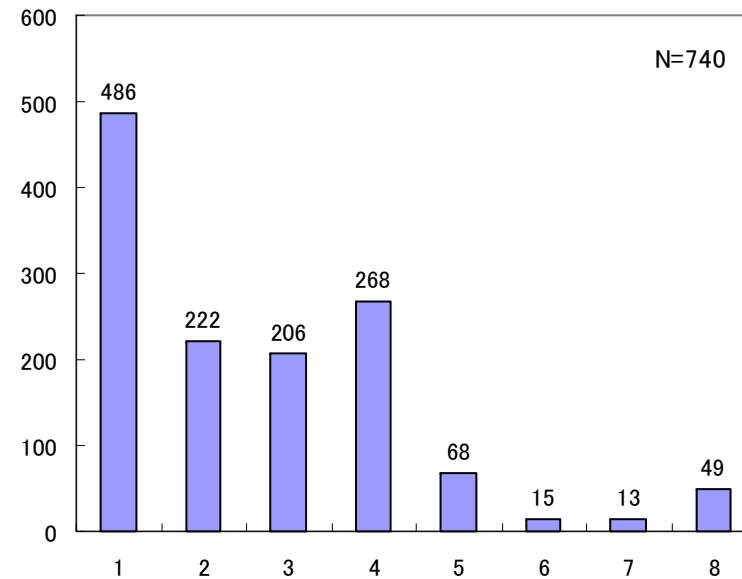
# ※防災・災害復興対策に男女の性別に配慮した対応が必要か

## ※性別に配慮して取り組む必要があるものは



防災・災害復興対策に、男女の性別に配慮した対応がとられる必要があると思いますか

1. 必要がある
2. どちらかといえば必要がある
3. 必要ない
4. どちらかといえば必要ない
5. わからない



防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか

1. 避難所の設置・運営体制
2. 被災者に対する相談受付体制
3. 食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制
4. 救援医療体制
5. 災害時の正確・迅速な情報連絡体制
6. 特にない
7. その他
8. わからない

女性たちが避難所に抱える不安や心配	よりよい避難所生活のために
<p>乳幼児を抱えた母親たちの不安・心配</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミルク・離乳食・オムツが不足するのでは</li> <li>・子どもの体調が心配</li> <li>・人前で授乳するのはストレスにつながる</li> <li>・ストレスで母乳が止まってしまったら・・・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 授乳室やオムツ替えスペースの設置</li> <li>* 乳幼児に必要なミルクやオムツなどの物資の支給</li> <li>* 育児相談窓口の設置(特に保健師や助産師を配置)</li> </ul>
<p>子どもたちのストレスが心配</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所内を走り回ったり、泣き出すなど、周囲に迷惑をかけることを考えると、危険でも自宅にいた方がいいのだろうか</li> <li>・子どもも恐怖心からストレスを抱えて不安定になるだろう</li> <li>・子どもに対する暴力が起きないだろうか</li> <li>・障がいのある子どもを避難させるのは困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 子どもたちが安全に遊べる空間の確保</li> <li>* 子どもたちの遊び相手になってくれるボランティアの確保</li> <li>* 子育て中の家族がまとまって生活ができるような空間づくり</li> <li>* 子ども心の問題を相談できる窓口</li> <li>* 障がい者施設などを避難所として開放してもらう</li> </ul>
<p>女性のストレスはさまざま</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所内で男女が一緒に生活するのはつらい</li> <li>・プライバシーが守られない空間</li> <li>・セクハラなどが心配</li> <li>・女性にとって、トイレ、風呂、着替えは大きな問題</li> <li>・精神的・身体的ストレスは健康悪化につながる</li> <li>・障がいを持つ人や高齢者にとっても避難所には不安がいっぱい</li> <li>・清潔が保たれなかったり、食欲がなくなっていくことで、健康上の心配も</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* プライバシーを確保できる仕切りの工夫</li> <li>* 女性のための更衣室の確保</li> <li>* トイレは男女別で明るい場所に</li> <li>* 女性に必要な物資の支給 (生理用品、化粧品、シャンプー、せっけんなど)</li> <li>* 女性医師による簡単な医務室や心の相談を受ける窓口には女性の相談員を配置</li> <li>* 障がいを持つ人や高齢者のために、避難所内をバリアフリー化し、ベッドや車イストイレを設置</li> <li>* 洗濯場や調理場の確保を。特に女性専用の洗濯物干し場が必要</li> <li>* 介護施設などを高齢者や障がい者のために開放してもらう</li> </ul>
<p>運営に女性の声を反映させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性が避難所の運営責任者に加わっていないと、女性の声が反映されない</li> <li>・生活者の視点に立ったニーズを把握するには、女性の意見の把握が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 避難所の運営責任者に女性の参画を</li> <li>* 避難所内に意見箱を設置</li> <li>* 女性たちの人的ネットワークや近所付き合いなどの地域コミュニティを運営に活用</li> <li>* 防災訓練に住民が参加しやすい避難所ワークショップなどを盛り込み、地域住民の情報を相互に共有しておく</li> </ul>

# 避難所運営に関する提案

1. 運営体制の責任者に女性を配置する。
2. 性別に配慮した避難所の設計を工夫する。
3. 地域の医療機関・助産機関・保健センター・保育・教育機関等と連携して運営にあたる。
4. 女性に必要な物資、女性に配慮した設備や相談窓口を被災マニュアルに盛り込む。
5. 避難所内のトイレを安全な場所に設置するなど、女性や子どもが被害に遭わないように配慮する。
6. 高齢者・障がい(児)者・妊産婦・乳幼児を持つ親等のための福祉避難所を第二避難所として設置する。(仙台市52ヶ所)